

“地域移行先進国”の欧米の実情は、これまで私たちが聞いてきた話とだいぶ違う。確かに精神科病床数は少ないが、精神障害者の居住施設が、英国やドイツでは人口1万当たり7ベッドある。ドイツでは、電車もバスも通わない山中にカギのかかる閉鎖施設がある。慢性統合失調症患者が100人以上収容されており、ここでほとんどの者が一生を終える…(佐々木一先生などの調査報告書より)。アメリカでは英国の約2倍、人口1万当たり14.1人がナーシングホームを利用している。統合失調症の人だけでなく、躁うつ病やうつ病の人、非精神病の人が大勢利用している(アメリカ疾病予防管理センターの資料など)。

日本では、今、地域に、「通所施設を長年利用してきたが、自立や就労は難しい」、「いわゆる“ひきこもり”を何年も続けている」、「家庭内暴力が繰り返され、本人も家族も疲弊しきっている」、「入院してもすぐ退院になり、家族が支えるのは限界」、そんな人たちが膨大にいる。家族が支えられなくなったとき、誰が支えられるのか。

グループホーム・ケアホームの利用を希望する人が急増している。しかし、人口1万当たり1.5ベッドしかない。英国の4分の1以下だ。しかも、配置スタッフ数が少なく、スタッフの負担が大きい。“症状や障害が重めの人”の希望も多いが、対応したくても難しい現状がある。

「病院医療中心から地域生活中心」をスローガンにして10年。今なお、地域は、社会資源もマンパワーも貧弱なままだ。家族の高齢化、格差の拡大で、状況はむしろ悪化している。これからどうしたら良いのか、欧米の本当の実情も参考にして、侃々諤々、論じ合ってみたい。

地域移行先進国の欧米の実情、日本はこれからどうする

精神障害者地域移行の先

第1部

座長：羽藤 邦利
メンタルケア協議会理事長・代々木の森診療所理事長

国際比較と海外の問題

- 海外と日本の精神保健医療福祉の統計から
メンタルケア協議会理事長・代々木の森診療所理事長 羽藤 邦利
- “地域移行先進国”における転施設化
(transinstitutionalism)と新たな問題
医療法人社団爽風会理事長 佐々木 一

第2部

日本の問題

- 日本の居住型施設の可能性と困難
はらからの家福祉会理事・総合施設長 伊澤 雄一
- 日本型家族ケア、ひきこもりと精神障害
大正大学人間学部臨床心理学教授 近藤 直司

第3部

総合討論 第1部・第2部演者によるディスカッション

- 日本の精神障害者の地域ケアはどこへ行くのか
全演者
指定発言 府中市精神障害者を守る家族会(府中梅の木会) 野村 忠良

平成27年

6月14日

SUN

場 所 SYDホール ●東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2
●JR代々木駅 西口より徒歩5分

第14回定期総会…12:00～12:30

懇親会 ……………17:45～19:30

シンポジウム 13:00～17:30

定 員 250名 (車椅子席をご用意できます)

参加費 会 員：2,000円 (事前申込 1,000円)

非会員：4,000円 (事前申込 2,000円)

懇親会 会 員：無 料

非会員：3,000円 (事前申込 2,000円)

※参加申し込みと同時に入会された場合、会員料金となります